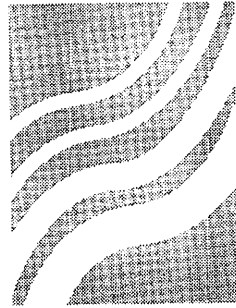


塾



学校からの帰りでしょう。小学校三年生くらいの女の子が二人肩を並べて歩いて来ましたが、三叉路のところでちょっと立ち止まりました。

「ねえ、きょう遊ばれる？」

「きょう、わたし塾があるの（塾へ行く日なの）」

「ううん」……

会話はそれだけでした。二人は、「じゃ、バイバイ」と言っ、明るく手を振り合いながら左右に別れていきました。半農村の小さな町ですが、このように子どもたちの生活のなかで塾通いはごくごく当たり前のことになっているようです。

一九九五（平成七）年六月に、県の統計課が「新潟

県青少年健全育成実態調査」※を実施しています。そのなかの「塾やけいごと（内容）」に関する調査結果に、県内の子どもたちの「塾」や「けいごと」通いの実態を垣間みることができます。

※調査対象Ⅱ県内小学校五年生六九〇人、中学校二年生七一人、高校二年生七〇〇人、勤労青年六三五人、小・中・高校生の保護者二二〇二人。調査時期Ⅱ九五年六月。実施機関Ⅱ（株）NBリサーチ。

一、「塾」や「けいごと」通いの実態

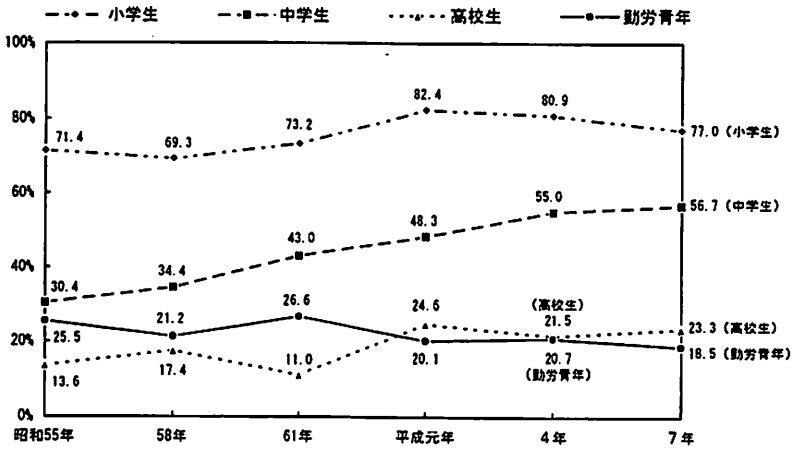
次ページの図①②は、前掲調査の結果をもとに、県民生部女性児童課が作成したグラフです。

図①は「塾やけいごとに通っている者の割合」の経年変化を表したグラフです。

小学生の場合は、一九八九（平成元）年に八二・四％とピークに達していますが、その後は少しずつ下がって、調査時点（九五年）では七七・〇％の子どもがなんらかの「塾」か「けいごと」に通っているということを示しています。

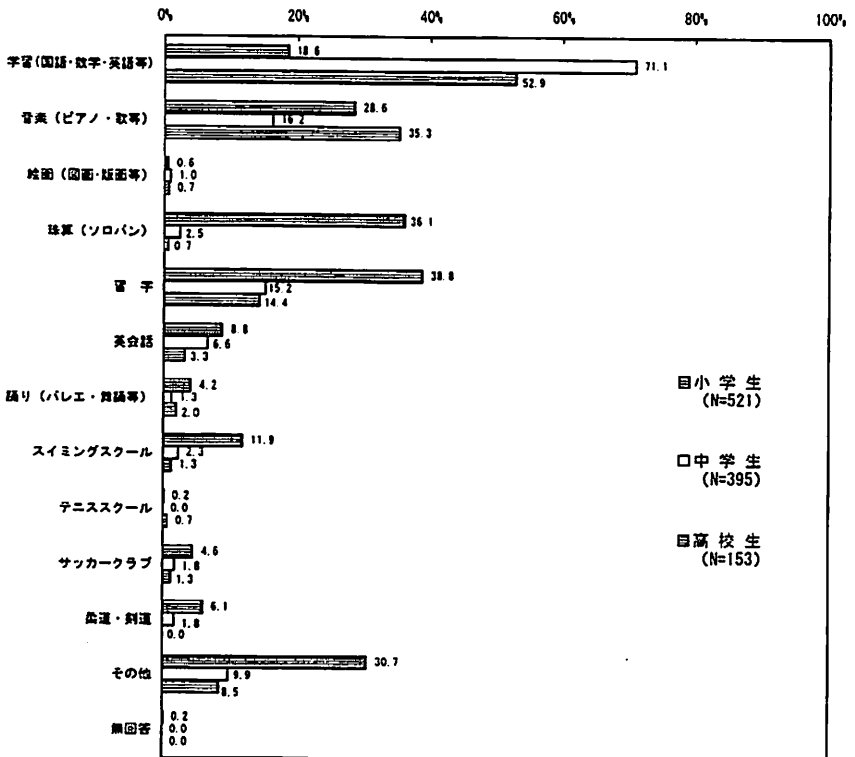
中学生の場合は、調査ごとに数値を高め、この調査時点で五六・七％と最も高く、ここ一〇年間で一四％近く上昇しています。高校生の場合は、八九年に二四・

図① 塾やけいこごとに通っている者の割合（経年変化）



(注) 教室・スポーツクラブを含む

図② 塾やけいこごとの内容〈小・中・高校生〉（複数回答）



六%と、八六年調査時の二倍強に急増し、その後はほぼ横這い状態といえます。なお、ここに載せていませんが、県統計課の原資料（以下「原資料」と略称）によると小・中学生で約三ポイント、高校生で約九ポイント、男子よりも女子の比率が、高くなっています。

調査では、さらに子どもたちが通っている「塾」や「けいこごと」の内容が明らかにされています。図②がそれです。

小学生では「習字」（三九%）が最も多く、次が「珠算」（三六%）、「音楽」（三五%）、「学習」（一九%）の順になっていますが、「原資料」によれば、前回（九二年）調査に比べて「習字」「音楽」は三〜四ポイント上がり、逆に「珠算」で一〇ポイント弱、「学習」では七ポイント下がっています。

中学生の場合は、「学習」が七一%と圧倒的に高く（ただし前回比三%減）、次が「音楽」（一六%）、「習字」（一五%）の順です。

高校生でもっとも高いのは「学習」の五三%（前回比一%減）、次いで「音楽」の三五%です。

図②には示されていませんが、小・中・高とも一般に「学習」は女子よりも男子の比率が高く、逆に「音楽」「習字」は男子よりも女子の比率が高くなっています。

ます。特に高校生の場合「学習」での男女差は三八ポイントあります。

二、通塾状況——全国との比較

こうした新潟県の実情は全国の状況と比べてどうなのでしょう。調査項目や方法が違うので単純比較はできませんが、一九九三年に文部省がまとめた「平成五年度・学習塾等に関する実態調査報告書」（対象は小・中学生のみ）以下「文部省資料」と略称）と比べてみます。

表①は、県と全国の、「塾」や「けいこごと」に通っている者の全体に対する割合を対比させたものです。小学生で七ポイント、中学生では三ポイント全国よりも率が下がっています。

表②は、そのうちの「学習塾」（国語・数学・英語など）に通っている者の割合です。県内の学習塾に通っている小学生は一九%（五人に一人）ですが、全国では三五%（二・八人に一人）が通塾しています。小学校段階では、新潟県は全国に比してまだそれほど学力競争が激しくなっていないということなのでしょう。

なお、「文部省資料」に市町村の人口規模別通塾率

表①塾やけいこごとに通っている者の割合（県国比較）

県	小学生(%)			中学生(%)		
	(男子)	(女子)	(全体)	(男子)	(女子)	(全体)
新潟	75.3	78.5	77.0	55.5	58.6	56.7
全国	80.9	88.0	84.4	74.6	81.3	77.8

表②上の内「学習塾」に通っている者の割合（県国比較）

県	小学生(%)			中学生(%)		
	(男子)	(女子)	(全体)	(男子)	(女子)	(全体)
新潟	20.1	17.4	18.6	73.4	68.2	71.1
全国	36.0	34.7	35.3	70.4	72.4	71.3

※「県」は95年、「全国」は93年調査。なお、「全国」は通信添削を含む。

が載っていますが、新潟県の小学生の通塾率は、「八千人以上三万人未満の市町村」における通塾率（一九・三％＝小学生）にはば見合った数値です。また、図②、表①、表②のデータをクロスしてみますと、新潟県は、習字・珠算・ピアノなどの教室に通っている小学生の割合が、全国のそれよりもかなり高いということがわかります。

一方中学生は、約七割の生徒が「学習塾」に通っており、これは全国と肩を並べています。ここで注意してみたいことは、県内の男子の通塾率が「全国」より三ポイント高いということと、女子の通塾率が「全国」では男子より二ポイント高いのに、県では逆に五ポイント低いということです。新潟県の子どもの進学志望の男女差や、あるいは親の、男女によって異なる子どもへの進路への期待度が反映しているのかも知れません。

ちなみに、「文部省資料」（全国）によりますと、保護者がその子どもを進学させたいと思っている学校段階別の通塾率は、「中学・高校まで」二六・二％、「短大・高専まで」三二・八％、「大学・大学院まで」四〇・九％となっています。

（片岡 弘）